

近未来コンクリート研究会 第2回C協議会 会議メモ

1. 日時：2018年9月19日（水）13：00～14：50

2. 場所：福德技研ビル3階会議室

3. 出席者：別紙

4. 議事内容

（1）第1回協議会の内容

竹田主査より、前回の議事メモの紹介があり、今回は初期ひび割れを低減するための課題を抽出することの提案があった。

（2）第2回協議会の議論

- ・配布資料は、最終のイメージを共有するためのものである。
- ・誰が何をすべきかを整理するべき。かかわりや、責任の明確化が必要。
 - ⇒発注者、受注者
 - 共通認識が得られていない。技術論でない。
 - 協議の場はあっても、議論になっていない。知識不足が一因。⇒教育が必要
- ・ひび割れ発生原因は複雑
 - ⇒チェック項目を各段階で行うとよい。 ⇒チェックリストが必要
 - ひび割れを皆無にするのは無理ではないか。
 - ひび割れがもたらす問題 ⇒費用の面からは発生後に補修した方が安い。
- ・共通仕様にマスコンを示しても理解検討されていない。
 - ⇒施工後に対応する例が多い。 ⇒事前に対応するべき。
 - 温度応力解析までは求めている。
 - 山口方式では誘発目地を考えている。 ⇒費用が出ると実施できる。
 - 一般的には、対策は持ち出しになる。
- ・耐久性に影響する？ ⇒構造物が長期供用になり、補修の考えが変化した。
- ・チェックシートはこの協議会で発信して欲しい。
- ・ひび割れ予知活動が必要。
- ・生コン側に事前に相談するとよい。 ⇒提案されても費用が掛かると限界がある。
- ・生コンは地域性も考えなければならない。
- ・マニュアルが独り歩きすることがある。 ⇒高性能AE減水剤の活用も場合による。
- ・性能規定にしたらよい。 ⇒理想論で現実は無理。仕様規定の方が現実的。
- ・対象とする構造物を明確にしないと議論がかみ合わない。
 - ⇒橋梁の柱頭部、壁状構造物、橋脚 などはひび割れが生じやすい。
 - 局面は打ちにくいのでひび割れが出る。
 - データベースにするとよい。
- ・乾燥収縮ひび割れは多いか？ ⇒壁高欄などで生じる。

水路に水を透さないと生じる。

乾燥収縮では鉄筋は拘束体になり、マスコンでは拘束にならない。

- ・マスコンの定義が仕様書に明記されていないのは問題。
- ・コンサルタントの理解不足がある。
- ・施工者側は実施時に再検討が必要。
- ・2007年制定の示方書で設計時にひび割れの検討をすることになった。

⇒道路橋示方書に従うから、示方書が生きていない。

- ・施工者の意見は出しにくい。 ⇒ 変更しても費用が出ないため
- ・完成後の評定点が影響する。 ⇒ 総合評価も課題がある。
- ・発注者により異なる。
- ・事前に協議することが大切。
- ・事前協議のための資料があるとよい。
- ・総合評価で提案する内容を生コン業者に求めることがある。
- ・チェックリストは「評価したか？」と書いた方がよい。

⇒構造物や施工条件が異なるので技術的内容は無理

- ・愛媛県では谷止め工でひび割れが生じた。 ⇒次回に詳細を紹介して欲しい。
- ・規準類で水セメント比指定は、除外した方がいい場合がある。 均しコンまで不要
- ・骨材寸法が大きい方がいいが、ポンプ施工を指定する場合がある。(安いから)
- ・鋼合成構造でひび割れが生じやすい。 原因は温度などが考えられる。
- ・建築スラブのひび割れで、翌日1mm幅が発生した事例を紹介。

⇒日中30℃で仕上げた。呼び強度が大きい。

- ・保温養生が対策として有効。 ⇒理論的に証明できる。

以上の議論があり、次回に整理して、対策の提案を行う。

5. 次回協議会について

第3回C協議会は、11月19日13時～ を予定。

以上